

JR発車ベルがアトムに

## 「鉄腕アトム」誕生の地・高田馬場を歩く

JR山手線高田馬場駅(東京都新宿区)の発車チャイムが1日、あの「鉄腕アトム」の主題歌に変わり、時雨模様の高田馬場に出かけた。故手塚治虫さんの人気アニメ「鉄腕アトム」は、2003年4月7日にこの街で生まれたことになっている。アニメの世界ほどは進まなかったが、近年、ロボットの開発はめざましい。「アトム生誕」で盛り上がっている駅や商店街を歩いた。

高田馬場駅は、冷たい雨が風に流されてホームにも降り注いでいた。外回りの電車が到着し、乗降客でごった返したときだった。

トランランラーラーラ...

故手塚治虫さんの人気アニメ「鉄腕アトム」の主題歌のメロディーがホームに流れた。

「あっ、鉄腕アトムだ」

思わず顔をほころばせる人もいる。1日、JR東日本は同駅の発車ベルを、電子音からこの懐かしいメロディーに変更した。



「鉄腕アトム」がなぜ高田馬場駅なのか。昭和26(1951)年に連載がスタートした原作によると、鉄腕アトムは2003年4月7日、高田馬場で生まれた。

①

アトムの出生に関しては徹底的に「馬」にこだわっている。生みの親の天馬博士は丙午(ひのえうま)年生まれの群馬県出身で、練馬大学卒業後、高田馬場にある科学省に入省。ここの精密機械局で生まれたのがアトムだった。

手塚さんが仕事をしていたスタジオも地元商店街の中にあった。昭和51年にスタジオが移転してきてから、平成元年に手塚さんが60歳で亡くなるまで、高田馬場から数々の名作が生まれた。



手塚さんがよく買いに来ていた和菓子店「青柳」の店主で、高田馬場西商店街振興組



発車ベルが「鉄腕アトム」の主題歌に変わったJR山手線高田馬場駅。改札口には「誕生の地」のPR看板が掲げられていた=1日、東京都新宿区高田馬場

合の飯田幹夫理事長(61)は「手塚先生が、『アトムが生まれたのは高田馬場なんだから、街おこしにキャラクターを使ってもいいよ』と言ってくれたんです」と話す。

これまでも同商店街では、手塚さんのアニメのキャラクターを街路灯に掲げたり、高田馬場駅のガード下に「鉄腕アトム」の壁画を取り付けたりしてきた。

そんな中、アトムの誕生日に向け、発車ベルを主題歌に変えようという話が商店街で持ち上がった。昨年6月からJR東日本側に働きかけ、暮れになってやっと許可が出た。

② 難航したのは、周辺には視覚障害者のための施設があり、同駅の利用者の中には発車ベルの違いで内回り、外回りの電車を判断している人もいるからという。

結局、2カ月という試行期間を設けて実施されることになった。「この間に苦情が特になければ、続けて『鉄腕アトム』を使ってもらえるそうです」と飯田さん。

駅で電車を待っていたさいたま市の学生、篠原一基さん(23)は「新鮮でおもしろい。JRにはお堅いイメージがあったけれど、こんなユニークなことをするとは」。

また地元に住む大学院生の男性(30)は「高田馬場の特徴が出ていい。この駅を利用して大学院に通っているの、通学が楽しみだ」とうれしそう。

同駅の安斎明助役(52)は「テープレコーダーを持って録音している若い男性を7、8人見かけたが、一般の乗客の方にもなかなか好評のようだ」と話していた。(by 水沼啓子)

**国鉄・遺族、高田馬場駅の盲人転落死——安全策強化で和解。**

1985/12/18, 日本経済新聞 朝刊, 31ページ, 776文字

書誌 類似

1985年

" 昭和60年

昭和

- ① 四十八年二月、東京の国電高田馬場駅のホームから盲人の男性が転落、電  
車にひかれて死亡した事故で、遺族が「事故はホームの安全対策に手落ちが  
あったから起きた」として国鉄を相手取り損害賠償を求めた訴訟の和解が十七  
日、東京高裁民事九部(賀集唱裁判長)で成立した。和解内容は(1)国鉄が遺  
族側に和解金約千四百三十一万円を支払う(2)国鉄は視覚障害者の安全対  
策に努力する——の二点。

原告は、東京都新宿区下落合二ノ二ノ二の無職、上野実さん(五十六年死亡)と妻のヨシエさん(83)。上野さん夫妻の二男で全盲だった孝司さん(当時42)は四十八年二月、国電高田馬場駅ホームから山手線内回り線の線路上に転落、ホームに入ってきた電車にひかれて死亡した。

- ② 上野さん夫妻は五十年二月、「国鉄はホームに点字ブロックなど盲人用の転  
落防止設備を設置すべきだったのにこれを怠った」として約四千五百四十万円  
の損害賠償を求めて東京地裁に提訴した。

五十四年三月の一審、東京地裁判決は(1)国鉄は盲人関係者から度々陳情を受けていた点字タイルをホームに敷設していなかった(2)事故当時、ホームには駅務係が一人しかいなかった——などの点を指摘、「高田馬場駅のホームは本来持つべき安全性を欠いていた」として国鉄に約千七百七十万円の支払いを命じる判決を言い渡した。

原告と被告の双方が控訴。控訴審は五十四年九月に始まり、今年七月までに二十二回の口頭弁論を開いた。この間、賀集裁判長が和解を勧告していた。

- ③ 原告弁護団の話 国鉄が和解条項に「今後とも視聴覚障害を有する乗客の  
安全対策に努力する」と明記したので和解に応じた。これは国鉄が事故の責任  
を認め、さらに安全対策をはかると宣言したものと理解している。

国鉄本社法務課の話 視覚障害を持つ乗客の安全対策に努力するのは当然のことで、従来通り実施していく。

## 《参考》

## [余録] 白い杖が空を切った…

2002/01/27, 毎日新聞 朝刊, 1ページ, 713文字

書誌 類似

白い杖(つえ)が空を切った。踏み出した足は宙をかき、体が舞った。あつ、と思った時は、線路の上に体を投げ出していた。耳をつんざく警笛——。その余りの近さに観念し、動く気さえ起きなかった。とつさに逃げ場所を探り当てるのは至難の業なので、落ちたら最後、と覚悟は決めていた▲電車運転士の機敏さのおかげで九死に一生を得たが、思い出す度震えが止まらない。74年5月の屋下がり、東京・新宿のJR高田馬場駅ホーム。日本盲人会連合の会長、笹川吉彦さん(68)にとっては3度目の転落事故だった▲下車する際、乗り込む人々にもみくちゃにされ、方向を失った。ようやく点字ブロックを探し当てたが、内外を勘違いしたため反対側のホームで発車しかけた電車の3メートルほど先に落ちたのだ。町を歩く視覚障害者には珍しいことではない▲通り慣れていても、安全設備が整っていても、目が不自由だと怖い。とくに駅のホームは死の恐怖と背中合わせだ。全国約20万人の重度視覚障害者の9割までが家に閉じこもりきりなのも、怖さが先に立つせいだという▲「杖になってくれる人がいれば」と笹川さんは言うが、世間はずれな。ガイドヘルパーと呼ぶ案内役を自治体が派遣する制度もできたが、素直に喜んでよいものか。障害者がもっと気軽に町に出ている海外では例がない。ホーム事故の大半が、大勢が見ている前で起きているのも奇妙な話だ▲隣の新大久保駅で3人が死亡した事故から1年たった。ホームの安全対策はそれなりに進み、売店での酒の販売が自粛されもした。だが、切実な視覚障害者の対策には前進がなく、相変わらず事故が続く。尊い犠牲に報いるためにも、白い杖の人を見たら声を掛ける“おせっかい”を励行したい。

## 助成の現場から(特別編)

### ネパールの子供たちに光を(東京ヘレン・ケラー協会)

東京ヘレン・ケラー協会: 三重苦の聖女と言われたヘレン・ケラー女史の2度目の来日を記念し、社会福祉施設として1950年に設立。52年に現協会に改組・改称した。国内外の視覚障害者を対象とした数々の福祉事業を行っている。

- ① ネパールでは、栄養不足からくる失明者が多く、就学児童でも1~2万人はいると言われている。にもかかわらず就学適齢期失明者を対象とした盲学校は全国で1校しかなく、子供たちは教育を受ける機会がありません。それどころか、その存在すら知られずにいました。



ネパール・バラ郡での現地スタッフの活動

- ② 東京ヘレン・ケラー協会では、1987年よりそういった子供を対象とした10年間の寄宿生活による一貫教育システムの確立を目指しました。丸紅基金はこの趣旨に賛同し、その実現のための資金の一環として、88年に250万円を助成しています。日本での研修や専門家を派遣して、現地の教師を育成するという本当にゼロからの出発であることに加え、児童には学問の習得のほか、自立のための生活教育にも注力する必要がありました。食事、服を着る、水くみなどの自立教育を経た子供たちは、一家の重荷という存在から労働力の中心へと大きく変わりました。

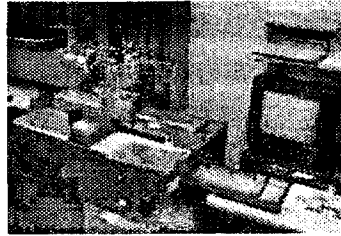
丸紅基金

この春、ようやく3名の卒業生が教員資格を取得し、社会的にも高く保障されるまでにこぎつけました。そして、現在彼らは、自分たちを育ててくれた董教育蔭に携わり、後に続く人物の育成に力を注いでいます。

より利用しやすい図書館のために(日本点字図書館)

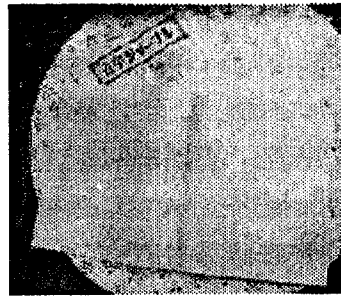
日本点字図書館：1940年創立。全国の視覚障害者を対象に、点字・音声図書や雑誌の制作・貸し出し、図書情報の提供ほか、多岐にわたる事業を行っている。

全国の視覚障害者を対象に、点字図書や音声図書の貸し出しを行う日本点字図書館。1988年、丸紅基金にパソコンの助成を申請しました。



点字出版機器

④ 日本点字図書館は当時、視覚障害者が各地の点字図書館でスムーズに所蔵本を取り寄せられるよう、情報提供の迅速化を進めていました。視覚障害者にとって、読書や情報収集をするために欠かせない点字図書や音声図書の目録がデータベース化され、貸し出し申請した図書が全国どこでも瞬時に検索して取り寄せられるようにするのは重要なことでしたが、職員4、5名に1台しかパソコンがなく、既存目録書を1ページずつめくりながら検索していたため、スムーズな対応ができなかったのです。丸紅基金からの100万円の助成により最新のパソコンが導入され、データベース化は目覚ましく進み、迅速な対応が可能となりました。



点字の単行本をはじめ、週刊誌・月刊誌なども幅広く収容

視覚障害者にとって、世界が広がるのは人生の可能性が広がること。丸紅基金のこうした助成は、今も日本点字図書館から感謝されています。

丸紅グループ誌『M-SPIRIT』No.18 (2003年11月発行)より

## 落語「猫の災難」を日本語とハンゲルでー古今亭菊千代が22日、東京で

2002/11/20, 毎日新聞 夕刊, 7ページ, 有, 387文字



古今亭菊千代=写真=が日本語とハンゲルの“2カ国語落語”に挑戦する「おおくぼ寄席」が22日午後7時、東京・新宿区百人町の長光寺で開かれる。

菊千代は桜美林大で落語研究会に所属し、広告代理店勤務を経て84年、古今亭円菊に入門。93年、三遊亭歌る多と共に、女性で初めて真打ちに昇進した。

古典、新作に加え、師匠も手がける手話落語にも挑戦してきた。「自分の落語を聞いてもらいたい、そのためにはその人たちの分かる言葉でしゃべらなくてはいけない」と、ハンゲルを学び、韓国と北朝鮮で披露したのが「ハンゲル落語」のきっかけになった。

今回は、在日朝鮮、韓国人が多く住む多国籍の街、新宿・大久保のまちづくり団体が主催。柳家小さんが得意とした「猫の災難」を日本語とハンゲルで語るほか、古典を一席披露する。ゲストはジャグリング(曲芸)のカズホ。問い合わせは03・5272・1044(共住懇)。

## 古今亭菊千代 プロフィール

昭和55年★ 桜美林大学 中国語中国文学科卒業

昭和56年★ 東京デザイナー学院編集 デザイン課卒業

昭和56年4月★ 広告代理店 編集部入社

昭和59年7月★ 上記会社退社後 古今亭園菊門下に入門

同 10月★ 前座名【古今亭菊乃】で楽屋入り

昭和83年9月★ ニツ目に昇進

同 12月★ 女流芸人の会『撫子倶楽部』結成

平成5年3月★ 先輩三遊亭歌る多師と共に女流初の真打昇進【古今亭菊千代】を襲名

平成13年8月★ 朝鮮民主主義人民共和国と韓国にて世界初のコリアン落語『松山鏡』を披露

平成14年6月★ 東京矯正官区長より東京拘置所の篤志面接委員を任命される

同 9月★ 朝鮮民主主義人民共和国とサハリン韓人会にて2回目のコリアン落語『猫の災難』を披露

## 主な活動内容

落語★ 浅草演芸ホール・鈴本演芸場・新宿末広亭・池袋演芸場などの定席出演。年1回鈴本にて独演会

12月には東西女流の会、中野小劇場にて創作噺の会、3月池袋演芸場にて手話落語の会

年2回上野池之端 福成寺にて独演会、隔月世田谷『ギャレイしゅん』にて独演会

年3回大久保 長光寺にて大久保寄席

年2～3回九州・四国・愛知などにおいて独演会

東京拘置所女区にて月1回話し方教室ほか全国の刑務所・拘置所・少年少女院・更生施設にて落語披露

講演★ テーマ(噺家の修行・楽屋話・前向き思考・男女共同参画ジェンダー・ボランティア・話し方教室)など

執筆★ 平成7年6月、日本出版社より『古今亭菊千代、噺家です』出版

その他★ 司会・踊り・獅子舞・玉すだれ等々

※母校桜美林学園評議員・同窓会幹事



「エスニックタウン 新宿・大久保の共生社会」

外国人とともに住む新宿区まちづくり懇談会（共住懇）

代表 山本 重幸さん

現在、多民族の街として名高い大久保は、その昔から外国人が多く住む街でもあった。この地域で外国人との共生を図ろうとする「共住懇」（外国人とともに住む新宿区まちづくり懇談会）の代表・山本重幸さんに、大久保の歴史や現在の様子についてお話しをうかがうことになった。会場は当然のごとく“大久保”である。

《大久保とはどんな街か》

大久保には明治時代から公務員住宅などがあり、小泉八雲が住んでいたことがあった。大正、昭和期には旧陸軍関連の住宅も増え、このころから孫文、蒋介石などアジアの留学生が来ていた。また、1950年代にはすでにかんりの外国人（在日韓国朝鮮人）が暮らしていたのである。

1980年代、世界では人口移動の大波が起き始めた。人々は、国境を越えて移住し始めた。もちろん日本も、その大波からの影響を逃れるわけにはいかなかった。……もともと新宿駅周辺には家賃2万円台の安い住宅が多かった。また、新宿区には「住宅条例」があり、あまり簡単に入居差別をするわけにはいかなかったのである。それに加えて、この地域には外国人のための日本語学校が急増しはじめた。……ここに、大久保において外国人を受け入れやすい土壌が成立したのである。そして、90年代から爆発的に外国人の数は増えていった。

世界にはロサンゼルスのリトルトーキョー、横浜の中華街など、外国人街はいたるところにある。だが、そのような街と大久保とは決定的に違うところがある。それは、大久保が“マルチ・エスニックタウン”である、ということだ。大久保には民族的な棲み分けがなく、いろんな民族が混在している。これは世界的に見ても希有のことである。

《外国人の流れ、ビジネスの移り変わり》

「共住懇」では、94年から『おいしい“まち”ガイド』という、大久保の外国人レストランを紹介するパンフレットを作成している。当初、記載されたレストランは24軒だった。ところが、96年には48軒、99年には67軒と、店舗数は確実に増えている。

現在、新宿区の居住人口は約264,000人。また、外国人登録者は約23,000人。現実には、それをかなり上回る外国人が住んでいるのだろう。多い国籍は、韓国、中国、ミャンマー、フィリピン、アメリカの順である。だが、いつもこの順番で外国人の数が並んでいた訳ではない。もともと大久保には在日コリアンが多かったが、やってくる外国人にはある種の「波」があり、ある時はフィリ

ピン、ある時はタイ、中国、韓国というぐあいに變化してきた。

これには、「送りだし国」の国内事情もその要因としてあるのだろう。ある国が貧困の中にあるとき、「日本に行けば儲かる」というブームが起こり、それが日本渡航につながったりするのだ。

### 《大久保の日本人の対応》

90年代になって大久保の外国人が爆発的に増えたとき、地域の日本人住民には動揺が起った。「外国人が増えるのは困ったことだ」と考える日本人もいた。そのような中で、新宿区役所が動き出した。91年11月に新宿区役所は、「外国人とともにつくるまち ー新宿区の国際化をどう受け止めるかー」というコミュニティ講座を開いた。このときの参加者有志が集まってできたのが「共住懇」である。

大久保では、今や地元商店街のお客の平均6割が外国人である。そのようなこともあり、この地域では外国人の存在を無視しては生活が成り立たなくなってきたのだ。

不動産屋も、かつては「外国人お断り」だったが、今では「外国人OK」の看板をわざわざ掲げている。また、ある公共看板は5ヶ国語で表示されている。新大久保駅。ここには、ハングル、中国語の定期券申し込み用紙がある。

「明洞」というレストラン。ここはコリアン料理の店のはずだが、なぜかメニューに「カレー」がある。韓国人とネパール人が結婚して、仲むつまじく「カレー」を出しているのである。

ゴミ置き場にも、ゴミ出しのルールを綴った英語、中国語、ハングルによる注意書が貼られている。

いまの大久保には新来コリアンが多い。だから、この地の韓国系教会では、時間をわけて日本語、ハングルによる礼拝を行っている。そして、同時通訳もある。

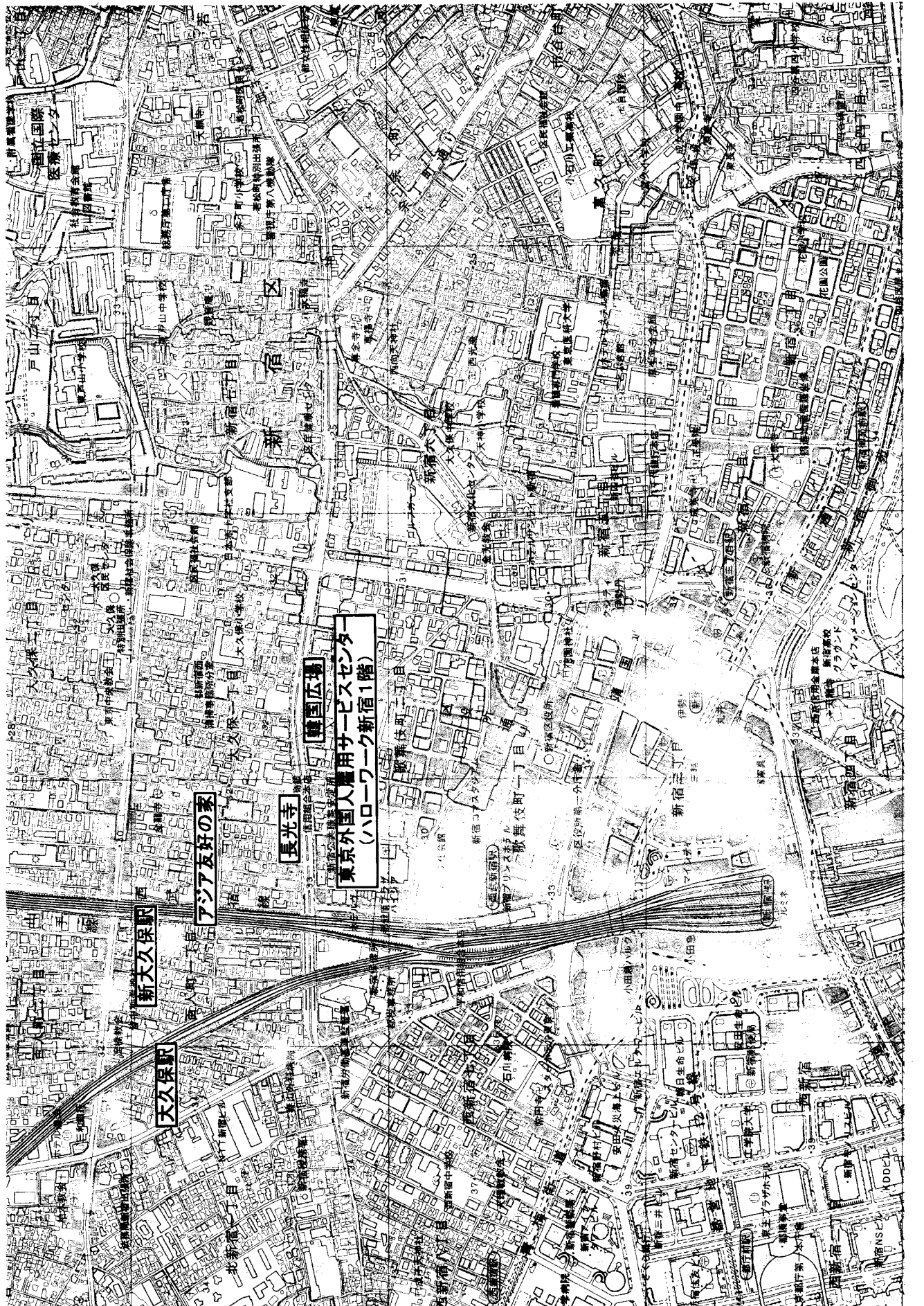
西大久保公園では毎朝、太極拳を演じる人々の姿が見られる。ある台湾出身者が公園で教えているのだ。そこに日本人のお年寄りたちが集うという、ほほえましい光景が展開されている。地元商店街も手をこまねいて見ているだけではない。「売り出し」には外国語のアナウンスを交え、商店街イベントには留学生に頼んで模擬店を出してもらおう、といった試みもしているのである。

現在の大久保の共生社会は、地元の人たちのこのような地道な努力のうえに成り立っていると言えるだろう。「大久保は、世界に類例のないマルチエスニックタウンです。だから、手本とするべきものがないんです。この街が、世界から注目されるモデルケースになることもありえます」。山本さんは誇らしげに語った。

会場の人々は、これから大久保はどうなっていくのかを知りたがった。だが、山本さんは慎重に断定を避け、「まとめないほうがいいと思うんですよ」と、さらりと言った。そのさわやかな笑顔が印象的な定例会だった。

(杉岡 幸徳・フリーライター)





東京外国人雇用サービスセンター  
(ハローワーク新宿1階)

長光寺

アジア長好の家

新大久保駅

大久保駅

韓国広場

新宿三丁目

クラウン

新宿三丁目

大久保

大久保

大久保